

# 第61回 ビザンツ帝国

## 1 ビザンツ帝国の成立と発展

- ( ) 年、ローマ皇帝 ( ) は、死に際してローマ帝国を東西に分割して、ふたりの息子に譲った。  
→西ローマ帝国と東ローマ帝国 (ビザンツ帝国) が成立した。



テオドシウス帝  
ローマ帝国の最後の皇帝となった。

☆東ローマ帝国 (ビザンツ帝国) (395~1453年)

都… ( ) ※現在のトルコの ( )

◆ ( ) (在位 527~565年)

- 6世紀、イタリアの ( ) や北アフリカの ( ) を征服して、地中海帝国としての復興を一時的に果たした。
- また中国から伝わった ( ) 業は、莫大な富をもたらした。  
→ソリドゥス金貨 (ノミスマ) は、地中海世界の各国で通用するようになった。
- 司法長官トリボニアヌスに命じて、『 ( ) 』を編纂させた。
- ビザンツ様式の最高傑作である ( ) を都のコンスタンティノープルに建設した。



ユスティニアヌス大帝

ビザンツ帝国の領土を、かつてのローマ帝国に一番近づけた。しかし実態は恐妻家で、ほとんど妻テオドラのいいなりだったらしい。この肖像画は、ラヴェンナにあるサン=ヴィターレ聖堂のモザイク壁画。



司法長官トリボニアヌス

『ローマ法大全』は、世界3大法典のひとつとされており、近代ヨーロッパの法律に大きな影響を与えた。彼自身は、異教徒であったとされる。



ハギア=ソフィア聖堂

巨大なドームが特徴。オスマン帝国に都が占領された後は、モスクとして使用された。現在は博物館になっている。



ヘラクレイオス1世  
マケドニア朝の皇帝。有能な皇帝ではあったが、最後で全部チャラになってしまった。死に方もかわいそう。

◆ ( ) (在位 610~641年)

- 7世紀、 ( ) と戦って勝利したが、 ( ) 勢力には敗れて、シリアやエジプトを失った。  
→外敵からの防衛のため ( ) や屯田兵制を実施した。
- この時代に、ラテン語にかわって ( ) が公用語となった。

## 2 ギリシア正教会の成立

- ・ビザンツ帝国は、コンスタンティノーブル教会を保護していた。  
→さらにコンスタンティノーブル総主教の任命権を持ち、教会を支配していた。  
※この体制を（ ）と呼ぶ場合がある。
- ・またローマ=カトリック教会とは、キリスト教の首位権をめぐる対立していた。

- ◆（ ）（在位 717～741 年）
- ・726 年、（ ）を出し、ローマ教会との仲が決定的に悪くなった。  
→聖像禁止令は 843 年に解除され、その後は（ ）や（ ）といった美術が発展した。
- ・両教会の聖像崇拜論争の結果、1054 年に両教会はお互いを破門して完全に決別し、（ ）となった。  
→ローマ教会のカトリックに対して、コンスタンティノーブル教会のキリスト教を（ ）といい、（ ）への布教が行われた。



レオン3世

初期の経歴は不明な点が多いが、優秀な軍人であった。聖像禁止令は、イスラーム勢力に対抗するために出されたと考えられている。



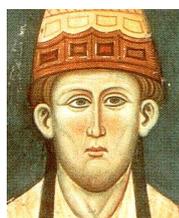
秘密兵器「ギリシア火」

レオン3世の時代、都のコンスタンティノーブルがウマイヤ朝に包囲されるという事件があった。しかし秘密兵器「ギリシア火」で撃退したとされる。

## 3 ビザンツ帝国の衰退と滅亡

- ・11 世紀ころから、国有地の管理権と税収入を与える（ ）が実施され、徐々に世襲化された。
- ・また東方からトルコ系のイスラーム王朝である（ ）がアナトリア半島に侵入し、1071 年、マンジケルトの戦いでビザンツ帝国は敗れた。

- ・ビザンツ帝国のアレクシオス 1 世は、それまで仲が悪かったローマ教会に援助を要請したが、これは（ ）という予想外の事態を招いた。
- ・1204 年の第 4 回十字軍では、（ ）の策略によりなぜかコンスタンティノーブルが攻撃され、（ ）が建国された。  
→ビザンツ帝国側はニケーアなどに逃れて抵抗し、1261 年にコンスタンティノーブルをなんとか奪回したが、ビザンツ帝国の衰退は決定的となった。
- ・（ ）年、（ ）の（ ）によってコンスタンティノーブルが占領され、ビザンツ帝国は滅亡した。



教皇インノケンティウス3世

何度も言うが、史上最強のローマ教皇である。それにしても第 4 回十字軍はひどい。ちなみに少年十字軍の悲劇も彼の時代である。



メフメト2世



オスマン艦隊の山越え

オスマン帝国のスルタンであるメフメト2世は、難攻不落のコンスタンティノーブルを落とすため、船を山越えさせた。トルコでは「征服者」と言えば彼を意味する。第 80 回を勉強しよう。